



学びの 羅針盤 - 2030 -

私たちが望む品川 子どもたち つながる

～みんなのウェルビー

子どもたちは、コミュニティの中で仲間・教師・家族・地域等、周囲の方々に囲まれ、協力しながら、自らも共生社会の担い手としての当事者意識をもってみんなのウェルビーイングを目指します。大海原の中、学びの羅針盤を頼りに周囲の人々が乗る船とともに自らの船を進めます。

子どもたちが、将来予測が困難で変化の激しい時代の中にあっても、自分らしく幸せな人生を送るためには、ウェルビーイングの実現に向けて自身が進む航路を自ら選択できるように学ぶことが必要です。

区教育委員会は、子どもたちが自分自身の手で自らの航路を選択することができるよう、OECDラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030をベースとした「品川区版学びの羅針盤2030」を作成しました。「品川区版学びの羅針盤2030」を手にした子どもたちが、見通しの困難な社会を乗り越えるための「知識やスキル、態度および価値観(コンピテンシー)」を身に付け、そして「自ら目標を決めて学び、責任をもって行動する力(エージェンシー)」を発揮することで、共生社会の担い手となるよう育みます。

子どもたちが主体的に目的意識を働かせ、自分自身の責任を果たしながら、周囲の人々と共に協力し高め合い、社会全体をより良くするために学んでいくことができるよう、区教育委員会は子どもの視点を尊重し意見を聴きながら、地域社会の一員である区民との協働により取り組んでいきます。

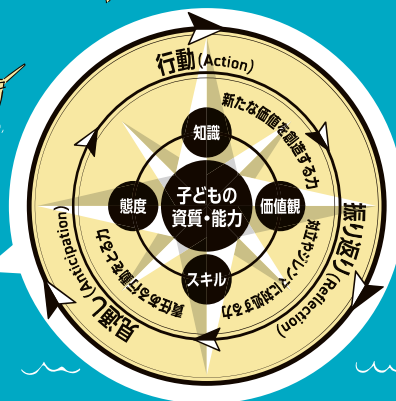
基盤 地域とともにある学校づくり 3校種体制における学校教育の推進 9年間の一貫したカリキュラム

土台 幼児教育と義務教育の円滑な接続

の未来(ビジョン)

の笑顔で 共生社会

イングを目指して～



重点施策

- ウェルビーイング教育の推進
- レジリエンス[※]育成の推進
- ダイバーシティ&インクルージョン[※]を実現する教育の推進
- 個別最適で協働的な学びを実現する環境整備

※レジリエンス:直面した困難に対してたくましく、しなやかに立ち向かい、乗り越える能力

※ダイバーシティ&インクルージョン:多様な人々がそれぞれの違いを認め合い、個々の特性を生かして活躍することができる状態

▶AARサイクルに基づく学習プロセスの活用

見通し(Anticipation)、行動(Action)、振り返り(Reflection)から成る一連の学習プロセス

市民科「5つのステップ」と
学びの羅針盤「AARサイクル」との関連

市民科 5つのステップ	1 把握	2 認識	3 習得	4 実践	5 深化
学びの羅針盤 AARサイクル	見通し Anticipation	行動 Action	振り返り Reflection		

▶市民科「5つのステップ」と学びの羅針盤「AARサイクル」のプロセスは共通しています。

▶他教科の学びにおいても「AARサイクル」を取り入れます。